

「秋田大学学生海外派遣支援事業」帰国報告書

工学資源学研究科 土木環境工学専攻 2年

江村 拓郎

2013年4月30日

派遣先大学名(国):ケミ-トルニオ応用科学大学(フィンランド)

在籍身分:交換留学生

派遣期間:2012年8月~2013年3月

渡航年月日:2012年8月20日

帰国年月日:2013年3月27日

1 派遣大学における授業等の履修状況

履修科目名	単位数
Finnish 1	3
Finnish 2	3
Discrete Mathematics	3
Data Communication	3
Computer Technology	6
Brush-up English	3

2 研究・学習概要及び今後の勉強計画

私はBIT(Business Information Technology)コースの1年生の授業を履修しました。具体的には、統計学や離散数学といったビジネス業界で使われる数学、コンピューターや

周辺機器の仕組みやプログラミングといった IT 関連の授業、それから英語やフィンランド語などの語学系の講義を受講しました。数学は高校で学習した内容がほとんどだったり、プログラミングでは比較的シンプルなソースコードを扱ったりと内容自体は基礎的なものが多く、語学力が十分とは言えない私にとっては丁度いいバランスで学習することができたと思います。基本的には座学が中心でしたが、英語の授業ではある記事に関して複数人で話し合うディスカッション形式の授業形態もありました。クラスは十数人と小規模でしたが、年齢は十代から三十代まで幅広く、様々な国から集まったメンバーで構成されていました。どの学生も年齢・国籍に関わらず授業中にわからないことがあると即座に手を挙げて質問しており、彼らの授業に臨む姿勢はとても印象的でした。

渡航直後は言葉の面で苦労しましたが、友人たちと積極的にコミュニケーションを図る中でそれほどストレスを感じることなく会話ができるようになりました。今後も意識的に英語に触れることで身に付いた英語能力を落とさないよう努めたいと思います。

3 生活面

アパートの各部屋には三つの個室と共同の風呂・台所・トイレがあり、そこで二人のルームメイトと生活をしました。居住者の大半は同じ大学の学生なので、頻繁に友人たちと食事をしたり娯楽を楽しんだりできました。様々な人間が住んでいますから、どんな人がルームメイトで、相性がどうかということは神のみぞ知るところだと思います。冬は週に一度、一階にあるサウナに入ることができました。そこで各国の留学生と裸の付き合いができたことは貴重な経験だったと思います。

アパート周辺にはスーパーや家具屋、図書館などが歩いて行ける距離にあるので生活するには全く困りませんでした。ただ最寄りの駅まではバスで40分ほどかかるため、電車に乗って他の街に行きたいときなどは少々アクセスが悪いかもしれません。



図1 フィンランド行きの特急電車

4 その他留学全般にわたる感想

この滞在を通して多種多様な人々やその生き方に触れることができたことは私にとって本当に大きな経験になったと思います。また外国から見た日本はどのような印象である

か、という私が最も興味があった点について様々な意見を聞くことができました。これらは他の国へ行っても同じような経験ができるかもしれませんが、-30 の気温やオーロラ、また野生のトナカイに出くわすなんていうことはフィンランドでないと体験できないことではないでしょうか。

最後に今回私の海外派遣に尽力して下さった両大学のスタッフの方々、またフィンランドで出会った友人たちに心より感謝します。



図 2 夕焼け